

# MCC雑感2007-3

於丸紅本社ビル 一階個室コンチェルト

出席： 15名

先月のVISTAのソフトウェアに続いて、今回はハードウェアの状況についての話とした。皆さんの関心が非常に高く、出席15人というのは近來にない盛況であった。内容はほぼ久保田の説明とそれに対する質問に終始したので、発表された講演案を下記する。

## I-VISTAのハードウェアについて考える

待望のVISTAが登場しました。

では今が買換えの時期として妥当なのか？

それにはどのような検討項目があるのか？

これは二台目三台目の投資をする我々にとっては古くて新しい問題です。

前提条件：

- \*デスクトップを選ぶ ノートは便宜的且つ制約条件がある場合のみ
- \*ホームユーザーとしてのハイエンド機を選ぶ
- \*機能的には多目的であり、一応考えられるすべての作業可能の機種  
(ワープロ、画像処理、インターネット、アーカイブ、TVとの合体)

### 1) 買換えのサイクルについての一般論

物理的なクラッシュ或いは様々な原因により何らかの不具合が生じている方については、対象外として、一般論としてパソコンはどのくらいの頻度で買

い換えるのが適当か？

- (イ) 機械的ファティグを考慮すれば、5年～7年
- (ロ) 進化の速いパソコンで、周辺機器との折り合いや通信回線速度の進化、その他諸々の理由から見たライフサイクルを考えれば3～5年
- (ハ) 快適なITライフを過す為には3～4年がマキシマム

つまりパソコンは昔の家財道具や器具類のように使い方次第で長持ちするというものではなく、むしろ適当なサイクルで買換えをすることが必至なものと考えられるべきです。また道具ということと同時に快適な娯楽性を備えた器具というべきでありましょう。

OSの変わり目は一つの大きなメルクマールですが、ウィンドウズがサポート期限として購買から5年、発売開始から7年としていることはパソコンのライフサイクルについての一つの目安になります。

## 2) この時期のパソコン

VISTA発売開始は日本メーカーの生産事情を全く考慮せずに決められた感があります。

現在パソコンメーカーは明らかな戸惑いを見せており、XP後期のハードウェアの進化の上でVISTAにも対応しているものの、VISTA仕様が確立していないようです。

当然のことながら周辺機器メーカー、アプリケーションソフトメーカーは迅速な対応を見せてはいるものの、ユーザーにとってはcomfortableな状況になるには、尚半年はかかると考えられます。(日経新聞3月6日記事)

バグの発生などについての情報は一切聞かれませんが、これはVISTAの準備期間が長かったこと、XPの大きな反省によるものでしょうか？

結論的には常識論として、今すぐVISTA搭載のパソコンを購入するのは、やや時期尚早と云うことでしょう。

## 3) 価格の問題

ムーアの法則を持ち出すまでもなく、パソコン性能は年々著しい進化を遂げ、それにつれて周辺機器及びソフトもまた素晴らしい勢いで進歩しています。しかし値段は殆んど変わらない - どころかむしろ総体的には安くなっています。(実質的にという意味ではなく、その時点に於けるハイエンド機の値段は変わ

らないのです)

我々の目指すマシンは事業用ではなく、家庭用であります。その中のハイエンド機というのが共通の思考であるとするれば、標準価格は 20 万円前後 30 万円以下ということになりましょう。

#### 4) 一寸待って OS だけを取り替えることも考慮する

一寸待ってください。何もパソコンごと取り替えなくても、大多数の方は XP で V I S T A にも対応する最新のマシンを持っているのですから、OS のグレードアップだけでもいいかなあと考えてみましょう。

その為の要件を満たしているかどうかを考えることは、即 V I S T A に必要なハードウェアを理解することになり、新機購入に際してのヘルプにもなるわけで、この際有意義であります。

それぞれの要件の詳細はマイクロソフトの発表は次のとおりです。

Windows Vista システム要件		
	Vista Capable	Vista Premium Ready
<b>プロセッサ</b>	800 MHz	1 GHz
<b>システムメモリ</b>	512 MB RAM	1 GB RAM
<b>グラフィックプロセッサ</b>	DirectX 9 対応	DirectX 9 対応、ピクセルシェーダ 2.0、WDDM 対応、グラフィックメモリ 128 MB 以上、32 ビット以上の色深度
<b>HDD 総容量</b>	20 GB	40 GB
<b>HDD 空き容量</b>	15 GB	15 GB
<b>その他</b>		DVD-ROM ドライブ、オーディオ出力、インターネット接続

上の表でグラフィックプロセッサの部分は私にはよく判りません。今後の勉強課題ですが、大方のご教示を頂ければ幸いです。

## 5) 主要仕様の押さえ方

- \* CPU  
大勢はインテル Core2Duo を推奨しています。  
Pentium-4 を使っているメーカーも多く見られますがこれは間に合わせ的で、CPU の在庫整理かも？  
Celeron というのは Home Basic でなら可能でしょう？  
クロック数は一時の 3.0GHz などというのではなく、むしろ小さくなっており、効率が上がったなどと素人には判り難い現場セールスマンの説明です。
- \* HDD  
テレビと結びついて DVD 録画をというキャッチフレーズから大勢は 250GB 以上、マンモス化の一途です。
- \* メモリー  
1GB が標準仕様化しています  
VISTA の特性である Ready Boost に USB メモリーを使うというのは、その指定ある USB メモリーを新調しないと、古いものでは役に立ちません、要注意
- \* モニター  
19～21 インチ液晶が標準です  
遊び用でテレビ化した場合でかい画面も出揃いつつあるようです。  
ソニーの TV サイド PC というのは画期的発想ですが、ここまで来るとパソコンとは懸け離れているかも？
- \* 光学ドライブ  
各社ともスーパーマルチ、両面書き込みなど粋を凝らしていますが、Blue Ray, HDDVD の決着はまだまだ先のことでしょうから、次世代マシンに譲って可
- \* テレビとの合体  
各社とも地デジ対応が謳い文句です  
米国系の注文仕様の場合これは全く顧みられていないのは已む無き仕儀でしょうが、チューナー別買いをしても、Rom のみで録画は出来ないこと要注意！

## 6) 先送りの先進的規格

(イ) 64ビット

業務用特にCAD等を目的とするPCには既に登場しているが、ホームユーザーには未だ高嶺の花と云うべきであろう。

(ロ) DVD規格

現在の複数の規格に対応するスーパーマルチはユーザーに安心感を与えているが、次世代の高速・大容量DVDに関しては、Blue ray（ソニー、松下）とHD DVD（NEC、東芝、三洋）両者の覇権争いは未解決で、デファクト・スタンダードは得られていない。

技術の進歩を齎す企業間の開発競争はユーザーにとっては場合により迷惑だ。

7) メーカー規格品かカスタマイズか

数多くのメーカーの中で前述した前提条件を満たすものとしては下記が代表的なものとなるだろう。

A) メーカー規格品を選ぶ場合

- i) FMV
- ii) NEC

B) 注文仕様の場合

- i) DELL
- ii) EpsonDirect
- iii) NEC, ソニー等のカスタマイズ

## 注文仕様製品の場合

### Epson Direct

Endeavor MR3100

ベースユニット

PCリサイクルマーク付

OS	Windows Vista Home Premium
CPU	Core2 Duo 2.4GHz
VIDEO	
Memory	DDR2 SDRAM 2.0GB
HDD	シリアルATA II 250GB
HDD 分割	C-80GB, D170GB
光学ドライブ	スーパーマルチDVD+R 2層
インターフェース	USB2.0×6
LAN	1000Base-T・100BaseTX
入力機器	109キーボード、マウス
保証	ピックアップ保守3年間
アプリケーションソフト	MS Office2007
モニター	
特別値引き	

¥273,580.00

## DELL

## Dimension9200

OS	Windows Vista Home Premium
Memory	DDR2 SDRAM 2.13GB
HDD	シリアルATA II 160GB×2
VIDEO	キャプチャーカード
保証	ピックアップ保守1年間
光学ドライブ	スーパーマルチDVD+RW 2層
カードリーダー/ライター/スロット	
モニター	DELL22インチワイドTFT
アプリケーションソフト	MS Office2007

¥216,743.00

この両社はVISTAの日本市場展開については、明らかな準備不足が目立ちます。

特に後述する日本メーカーが挙ってテレビとの合体化に諸手を挙げて囃し立てていることを考慮すると、両社はこの点極めてクールであり、パソコンはパソコンであってテレビとは別という姿勢がはっきりしている感じです。

## FMV

### FMVLX70UD

¥269,800.00



地デジ、BS デジタル、CS,アナログチューナーも搭載しているので、2番組同時録画も可能、本体奥行き25cmの省スペースで、コードレスのキーボードも本体下に収納できます。

CPU	インテル Pentium-4 3GHz
メモリー	1GB
HDD	400GB
モニター	20.1型ワイド
ドライブ	DVD スーパーマルチ (±R2層式)
TV チューナー	地上デジタル放送対応

\*スタンダード型 EK50U

¥164,800.00

CPUはCore2Duo 1.6Hz、モニター17型

\*超デラックス型 TX95UD

¥599,800.00

CPUはCore2Duo 1.8GHz、37型ワイドモニターでHDD 800GB、ブルーレイDVD付き・・・これはPCというよりテレビ!

\*尚FMVには自宅テレビに繋いで、という本体のみ¥179,800.00というTE50 UDというのもあります。

# NEC

## VALUESTAR VL770HG

¥274,800.00



約2秒で地上デジタル放送が起動、パソコンを起動していなくても、リモコンのボタンを押してから約2秒で地デジ放送が立ち上がる「ぱっと観テレビ」を搭載。

明るく色鮮やかなスーパーシャインビューEX2液晶により、液晶テレビ並みの高画質で地デジを見ることが出来る新デザインを採用してスタイリッシュになっただけでなく、前モデルより横幅を20%減少させている。

CPU	インテル Pentium-4 3GHz
メモリー	1GB
HDD	320GB
モニター	20型ワイド液晶(1680×1050)
ドライブ	DVDスーパーマルチ
TVチューナ	地上デジタル放送対応

\*スタンダード型 VL300HG

¥184,800.00

CPUはCeleron、モニター17インチ

\*超デラックス型 VS790HG

¥344,800.00

CPUはCore 2 Duo、DVDドライブはBlue Ray

**\*尚NECにはインターネット上でならカスタマイズ製品を選べる**



# SONY

## テレビサイドパソコン TP1



丸くてスリム、これまでに全く無かった新しい形です。  
すべてのインターフェースを覆い隠し、コードレスで家具的デザインに拘りました。これがVISTAの象徴的パソコンかも知れません。

仕様は自由にカスタマイズ出来ますが、下はその中くらいのものです。

CPU	インテルCore2 Duo 1.66GHz
メモリー	1GB
HDD	160GB
モニター	お宅のテレビです
ドライブ	DVDスーパーマルチ

これを見てしまったら、ソニーの通常型のパソコンは調べる気を失ってしまいます。

しかしながら、これはやはりパソコンとしての使い勝手、特にワープロ的な作業には向いていないでしょうね。

# SOTEC

特売値段：¥134,000.00 - イベント割引

SOTEC

スタイリッシュスリムタワー  
PC STATION BJ3712B/L9JW02

スタイリッシュなボディをスリムに置く。  
充実の性能で、もっと快適。

19型ワイド液晶セットモデル

Windows Vista Home Premium

Microsoft Office Personal 2007

こだわりの国内最終組立

安値世界への挑戦  
コジマ

※写真はパソコン合成です。実際の表示とは異なります。

CPU	インテル Pentium-4 3GHz
メモリー	1GB
HDD	320GB
モニター	19型ワイド液晶
ドライブ	DVDスーパーマルチ
TVチューナー	なし

ここにご紹介するのはいわばオマケです。

SOTECというのは何かと評判がよろしくないのですが、値段は飛び切りです。おまけに目下コジマが各種イベントをこれに継ぎ足して3~5万円引きも実現しているので、ある店ではTEPCOの光と抱き合わせなら10万円も切るといふ事例もあります。

これにはOfficeもついてはいますが、テレビとの接続は全く考えられていません。また保証についてはコジマの5年保証というのがありますが、これは一回限りで且つ3万円を越した場合にのみその超過分を払ってくれるという極めて限定的保証であること、要注意です。

## II ソースネクストのアンチウイルス・ソフト

MCCでは全員がシマンテック社のノートン・アンチウイルスをインストールして、毎年年初に会員各自が、ノートンが正常に機能しており、有効期限内であること及びシステムをスキャンして安全が確認されたことの2点を確認することを、恒例として来ております。

この年初確認は3年前から実行されているのですが、近年ノートンの期限更新に関連してトラブルに見舞われ、正常なパソコンの作動に支障を来たす人が現れ、事実上約束の実行は全員に守られ難い状態であります。

以上から、現実論として、毎年更新の必要がないソースネクスト「ウィルスセキュリティZERO」を使うことも容認したいという動議を提出致しましたところ、大方のご諒承を得ました。

ソースネクストの場合、インストールは自動であり、操作もすべて自動、アップデートも自動、バージョンアップ（毎年の更新）も無料であり、初期投資は¥3,970.00で済みます。

当然のことながらそのセキュリティの度合いはノートンに比較すれば脆弱であることは確かですが、我々レベルのパソコンユーザーにとってはこの程度のプロテクションでも充分ではないかという判断も有り得ると考えます。

たとえノートンがインストールされていても100%万全であるということはなく、ソースネクストよりは安全性が高いというに過ぎません。

この意味ではいずれにせよ、ハードディスク内のデータのバックアップと万一汚染された場合は直ちにハードディスクの初期化をせねばならないことはパソコンを扱う以上どちらの場合でも同じ事であります。

以上を以て、今後MCCは従来のノートン一本槍からソースネクストも容認するという事に基本方針を変更いたしました。

—以上—